

## 4 ◆ 顎関節症

顎関節症については、現代医学の治療もある程度効果を得ているが、筆者の経験では針灸治療のほうが即効性があると感じている。以下に、現代医学の考え方と、東洋医学の見方との相違を述べてみたい。

### 1 顎関節症とは

#### (1) 現代医学からみた顎関節症の定義

顎関節症は、顎関節部の疼痛開閉口時の雑音、咀嚼筋の疼痛、開口制限、開閉障害などの顎運動障害を主症状とする顎口腔系の機能障害症候群の総称である(図2-5)。

発症原因は、おもに咬合位の異常、歯ぎしりなどの悪習慣、精神的ストレス、外傷などが考えられるが、その発生機序は複雑で不明な点が多い。

治療は、おもに顎関節や咀嚼筋を生理的に安定した状態に回復させるため、咬合調整や、オクルーザス・プリントなどによる咬合位および咬合関係の改善を行う(参考文献20)。

#### (2) 筆者の考える顎関節症診断の要点

- ①発病前に精神的原因がある。不眠・精神衰弱などの素因、多くは青年女子に多い。
- ②常に顎関節に咀嚼痛・痙攣・開口制限・摩擦音などの特徴的な症状があ

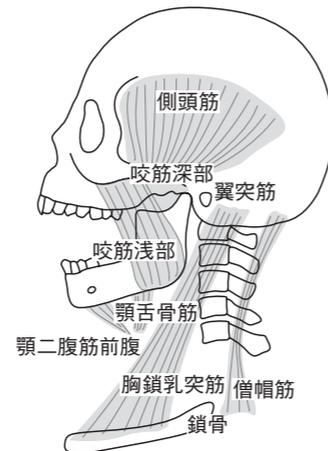


図2-5 咀嚼と顎関節機能に関する筋肉

り、顎関節の咬合障害がある。

③全身の関節症状を伴うことがある。

④本症は、精神的緊張が咀嚼筋の機能不全を来す、肝気阻滞による経筋障害と考えられる。

#### (3) 東洋医学からみた顎関節症の原因と対処

##### ①顎関節症の症状

心因的な感情が奥底にあり、不眠・怒りっぽい・焦燥感・めまいなどが原因となって一側、または両側の開口障害、側頭部や顎関節の疼痛や硬直を来す。しばしば耳鳴りや脳鳴りを伴う。症状は、顎関節の異常にとどまらず全身の関節症状を伴うことがある。精神的緊張によって咀嚼筋の機能不全を来す、肝気阻滞による経筋障害と考えられる。

##### ②治療方針

塞がっている肝気の流れをよくし(疏肝理気)、経絡の流れをよくして筋肉の緊張をゆるめる(舒筋通絡)。おもに顔面をめぐっている手足の陽明経と手太陽小腸経に取穴する。

##### ③取穴

聴宮(小腸経)・下関(胃経)・頬車(胃経)・太衝(肝経)・陽陵泉(胆経)・合谷(大腸経)を取穴する。めまいがあれば風池、不眠があれば神門・百会(または四神総穴)を加える。

以上のように、顎関節は顔面の両側に位置しているため、その周辺を走行する経脈(手足の陽明経、手太陽小腸経・足少陽胆経)の穴位が治療に使用されることが多い。それに精神安定作用のある穴位に取穴する。

一般に、刺針直後に開口障害や開口痛はいくらか改善されることが多い。

### 2 治療穴

#### (1) 主穴

##### ①聴宮

操作：刺針するときには、口を開けて1寸ほど進針し、針感を頬部に放散させる。10分置針する。

##### ②下関

操作：口を閉じたままで針尖をやや後方に向けて進針し、針感を側頭部から顎関節に放散させ、瀉法で刺激する。10分置針する。